

道徳の授業 1

何回かに分けて道徳の授業について考えてみる。このWebサイトにも道徳のことを書いたことがある。
(H26に書いた文 → 基本 道徳 260223 参照)

現在、学習指導要領が改正され、道徳については移行措置期間である。
市町によっては、特別の教科 道徳（道徳科）に移行しているところもあるだろう。
さて、道徳の授業は「考える道徳」「議論する道徳」が求められている。
実は、社会が急スピードで進んでいるが、教育がそのスピードについて行っていない、と言われている。
そんな社会で生きるであろう子供につける資質・能力が重視されている。

基礎をどのように活用するか → 道徳なら、どう生かして実践していくか

教育基本法の目標が道徳にも生かされているのである。

現在「心情」がトップ項目だが、
今後、発達段階を考慮し、2項対立ではない問題解決で、ロールプレイも含めた体験的な授業になる。
先生はまとめてはいけない、発問によって子供の思考のベクトルを整えるのである。

(かつては善悪の対立で、善の価値観を理解させていた。)

何を理解しているか

何ができるか

理解していることをどう使うか

どのように社会と関わるか

それは、道徳的な諸価値の理解をもとに、道徳性を養っていくことになる。
道徳的な理解をもとに、「～の事象についてどう考えるか」を行う時間である。
(実際にどういう行動を起こすことができるか。)

では、どうしたら「考える道徳」「議論する道徳」になるか。
そのためには、どんな授業、どんな発問が考えられるかである。

↓

文（ぶん）の情報を総動員するのである。多様な考えを引き出すのである。
「どう思う？」 子供に投げかける、子供を信頼して聞く。

気持ちはどんなだったかな？
どう考えたかな？
どのように考えたかな？
～のようになったのはどうしてかな？
～の気持ちをどう思うかな？
どんな気持ちが大切かな？
どうすればいいのかな？
どうしてこんな気持ちになったのかな？

いっぱい話をさせる【多様】 → ただし（先生は）まとめない【道徳の価値観はちがっていてよい】

話し合うことを狙いとし、多様性があることを知り、個に返す。
(ワークシートは、考えさせたいことだけのものでよい)

☆子供は必ずしゃべる 子供を信じる 先生はすぐに指示せず我慢する
つづく・・・